

I 実践

1 研究主題

学校、家庭、地域と連携した人権教育のあり方
 ―学校・地域での福祉体験活動を通して―

(1) 主題設定の理由

本校は、「自ら学び、考え、実行する生徒」「思いやりのある心豊かな生徒」「たくましく生きる健康な生徒」を3つの教育目標として掲げている。その中でも「思いやりのある心豊かな生徒」が人権教育と直接かかわりのある目標であり、それを受けて、本校では、「生命を尊重する心、他人を思いやる心、正義感や公正さを重んじる心、互いの個性を認め合う心」などをもつ生徒の育成が重要課題であると考えている。

人権教育とは、「人間尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」であり「人間尊重の理念に対する理解を深め、これを体得しようとする事」である。そこで本校では、「自己や他者を認め、温かくかかわり合いながら、人や地域社会にできることを探し、実行する態度」の育成をめざし、学校の教育活動全体を通して実践を進めてきた。

以上のことから上記本主題及び副題を設定し研究を進めることとした。

(2) 研究の内容

ア 研究主題のとらえ方

(ア)「学校、家庭、地域の連携」について

学校を地域の教育センターととらえ、生徒に「いい体験」「いい学び」をさせてくれる地域の人々との橋渡し役を果たすととらえる。

(イ)「人権教育」について

「自己や他者を認め、温かくかかわり合いながら、人や地域社会にできることを探し、実行する態度を育成すること」ととらえる。

イ 具体的な研究の進め方

本校のよさである教科教室型を生かした生徒の主体的な学びを展開するには、生徒の自主・自律性を高め、規範意識の高揚を図る必要がある。そのために、心の教育の充実が重要となってくる。

そこで、本校では、「いい体験」「いい学び」をさせてくれる「いい生き方をしている大人との出会い」を大切にする授業を展開し、自己や他者を認め、温かくかかわり合いながら、地域社会の一員としての自覚や資質を身に付け、人権感覚を磨くことで主題に迫りたいと考える。

2 実践内容（事例1 ―道徳―）

(1) 単元名 「裏庭のできごと」 （出典 読み物資料）

(2) 単元設定と理由

中学生の時期は、親や教師など大人への依存から離れ、自我への目覚めから反抗が始まる時期でもある。友だちとの関係を重視するようになり、大人から独立しようとする発達段階にある。中学校に入学して新しい人間関係を形成し、友人関係が定着しつつある2学期の中間で、周囲の考えや意見を気にして他人の言動に流されてしまったりすることも少なくない。今後生徒たちが目の前に立ちふさがる様々な困難にぶつかるとき、自ら考えて判断し、誠実に実行し、その行動に責任をもつことが求められる。ここでは友だちの言動にとらわれることなく自分の意志をもって、自ら誠実な行動をとろうとする態度を育てていきたいと考えている。

(3) 資料の生かし方

友だちの誘いをきっかけにガラスを割ってしまった事実を言えなかった健二が、悩みながらも最終的には自分から先生に事実を話す姿が描かれている。友だちとの関係を気にして、真実を伝えに行くのをためらってしまう主人公健二の苦悩は、中学生にとって共感しやすいと考える。今回は3人の気持ちを考え、他人の考えを理解した上で、自らとるべき誠実な行動とは何かを考える場としたい。

(4) 本時の指導

これまでの自分の行動を見直し、善悪について考え、自己の判断で誠実に行動しようとする態度を育てる。

(5) 考察及び検証

学習活動・内容	活動のようす	テーマに関する考察
1 アンケートの結果を聞く。	○興味をもってアンケートの結果を聞いている。 ○アンケートの結果をもとに積極的に感想が述べられていた。	○道徳専用教室を活用し、話し合い活動が活発に展開できるように机をコの字型に配置した。
2 読み物資料を読む。 (1) 場面ごとに教師の朗読を聞き、話し合う。 (2) ガラスを割った直後、職員室に向かう雄一が考えていたことを話し合う。 (3) 健二がガラスを再び割ってしまった後「どうしよう。」と言ったのはなぜか話し合う。	○雄一の台詞の前に入る理由を考えやすくする資料を黒板に掲示したため、ワークシートへの記入がスムーズにできた。 ○スペースに余裕のあるワークシートだったので考えを細かく記入する生徒が多かった。	○ワークシートに考えや意見を書くことで発表が得意な生徒へは自分の意見をまとめるきっかけとし、発表が苦手な生徒へは発表しやすくするための手段として有効であった。
3 代表の生徒3名で資料の第3場面をロールプレイし、それぞれの立場で登場人物の気持ちを考える。 (1) 代表の生徒3名でロールプレイ (2) 演技を見て健二の気持ちを考え、ワークシートに記入し、グループで話し合う。 (3) 話の続きを予想する。 ①自分が健二だったらどうするか。 この話の続きを考えてみる。 ②話の続きを書く。 ③本当の話の続きを聞く。	○代表の3名の生徒の発表は一人一人がそれぞれの登場人物になりきって台詞を述べており、他の生徒も聞き入っていた。 ○小グループで司会者を中心としてワークシートを活用して話し合いが行われていた。 ○小グループでの討論であったので発表することに消極的な生徒も意見を述べる事ができていた。 ○書くことに苦手意識がある生徒には箇条書きにて話の続きが記入できていた。	○事前に代表の生徒たちとロールプレイの練習を行っていたため、演技発表は自信をもって、台詞を自分の言葉で述べる事ができていた。 ○司会者を立てたことで小グループでも一人一人が話し合いに参加する意欲が高まっていた。 ○学校や日常生活の中で困難に遭遇したときに自分で考え、主体的に誠実な行動がとれるように、この授業で学んだことを今後も継続して助言していきたい。
4 教師の説話を聞く。	○生徒は登場人物それぞれに対する気持ちを考え、グループの仲間と考えを共有するという活動を行ったため、「真実を友だちや教師に打ち明けに行き、誠実な行動をとる」という話の展開を予想した生徒がほとんどであった。	○教師の学生時代の体験談を聞くことで教師自身も子どもの頃には悩んだことに共感を覚えた生徒が多かった。善悪について考え自己の判断で誠実に行動する態度を育てていこうとするきっかけとなっていた。

3 実践内容（事例2 ー1年総合ー）

(1) 単元名 「生き方に学ぼう ～人に、地域に、自分ができることは何だろう～」

(2) 単元のねらい

- 自分たちが住む地域やそこに住む人々に関心を持ち、地域の人々から多くのことを学び、これからの生活に生かしていこうとする意欲をもつことができる。
- 地域の人々との関わりや福祉体験活動をするなかで、様々な人々の生き方を知り、自分の生き方について考えることができる。
- 福祉体験活動を通して、社会に貢献することの意義や地域を支える存在として自分を高めていくことの大切さに気づき、生き方を創造することができる。

(3) 実践事例

福祉体験学習では「人に学ぶ」をテーマとし、高齢者や障害のある方々、幼児、社会福祉施設で働く方々など多くの人々とのふれあいをもちながら学習を進めることができた。「いい体験」「いい学び」をさせてくれる「いい生き方をしている大人との出会い」を大切にする授業を大事にしながら、地域社会の一員としての自覚や資質を身に付け、人権感覚を磨くことが大切であると考え実践している。



4 研究の成果

「いい生き方をしている大人」との出会いを大切にする授業を展開したことで、自己や他者を認め、温かくかかわり合いながら、地域社会の一員としての自覚や資質を身に付け、人権感覚を磨くことができたと思える。

II 今後の課題

地域の「いい生き方をしている大人」と多数出会ったことで生徒は己や他者を認め、温かくかかわり合いながら、地域社会の一員としての自覚をもつ第一歩となった。地域人材の活用をさらに計画的に行いながら、日常の学校生活の中でも生徒が他者や地域社会にできることを探し、実行する態度を育成していきたい。